

アロマターゼ阻害薬服用患者のスタチン製剤併用状況

山口 弘¹⁾、田村 溪²⁾、政本 康成³⁾、常世田 京子⁴⁾、永野 悠馬⁵⁾、前田 守⁵⁾、
長谷川 佳孝⁵⁾、月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1) (株)アインファーマシーズ アイン薬局 獨協医大店
- 2) (株)アインファーマシーズ アイン薬局 千葉西店
- 3) (株)アインファーマシーズ アイン薬局 つくば天久保店
- 4) (株)アインファーマシーズ
- 5) (株)アインホールディングス

【目的】 エストロゲン産生抑制を作用機序とするアロマターゼ阻害薬(以下、AI)は、HMG-CoA 還元酵素を活性化し、血中の LDL コレステロール(以下、LDL とする)値を増加させる可能性がある。そこで、外来がん化学療法での AI とスタチン製剤(以下、Statin とする)の併用状況を調査し、薬局薬剤師が果たすべき役割を検討した。

【方法】 2017 年 4 月から 2020 年 10 月に当社グループが運営する保険薬局が女性から応需した処方箋 32,226,402 枚において、AI とエストロゲン受容体モジュレーター(以下、SERM とする)の処方動向と Statin の併用状況を調査した。また、これらの服用前に脂質異常症薬の処方がない患者を抽出し、血中 LDL 値上昇に寄与しない作用機序の SERM と Statin との併用を基準としたオッズ比を算出し、AI 服用開始後における Statin 服用開始の程度を評価した。結果は、非高齢群(30 歳以上 60 歳未満)と高齢群(60 歳以上)に群分けした(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0103)。

【結果】 2017 年 4 月における AI、SERM の処方応需率はそれぞれ 0.47%、0.26%であり、2020 年 10 月ではそれぞれ 0.51%、0.25%であった。Statin との併用率は、AI 服用時は非高齢群で 2.29%、高齢群で 4.00%、SERM 服用時はそれぞれ 0.62%、2.47%であった。AI 服用開始後における Statin 服用開始の程度は、非高齢群はオッズ比 4.38(95%CI:3.00-6.40)、高齢群はオッズ比 1.54(1.10-2.16)であった。

【考察】 AI 服用時の Statin の併用率は高齢群の方が高く、加齢に起因する血中 LDL 値上昇の影響が懸念された。しかし、非高齢群の AI 服用時、高齢群の AI 服用時、SERM 服用時の順に有意に Statin の服用が開始される傾向があり、AI 服用時は血中 LDL 値上昇への注意が必要であることが示された。薬局薬剤師は AI 服用患者の検査値を確認し、支持療法や処方変更の提案を実施することも必要であると考えられる。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)